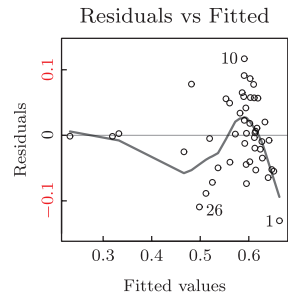
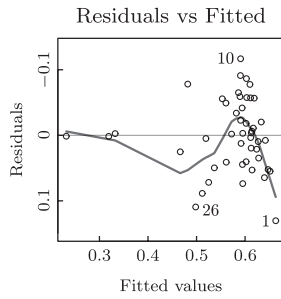


『統計検定準 1 級対応 統計学実践ワークブック』

(日本統計学会 編, 学術図書出版社)

正誤表 第 1 版第 8 刷用

頁	場所	誤	正
8	下 8 行目	y の条件付き確率密度関数	\mathbf{Y} の条件付き確率密度関数
16	13 行目	$\int_{-\infty}^{\infty} y f_{Y X}(y) dy$	$\int_{-\infty}^{\infty} y f_{Y X}(y \mathbf{X}) dy$
65	8 行目	<p>「これを, 最尤推定量の漸近正規性 (asymptotic normality) という。」に脚注として以下を追加してください.</p> <p>なお, 漸近正規性をもつ推定量に対して, その極限分布の分散がクラメル・ラオ不等式の下限を達成することを漸近有効性と定義することもあるが, 分散の極限と極限分布の分散は一般には異なるので, 上記の漸近有効性の定義とは厳密には異なる.</p>	
66	問 8.3 の 1 行目	半径 r を	半径を
66	問 8.3 の 4 行目	このとき	コインの半径は平均 r の確率分布に独立同一に従うとするとき
69	4 行目	<p>「ある。」の後に以下を追加してください.</p> <p>ただし, これはコインの半径が平均 r の分布に従うと仮定したからであり, コインの面積が平均 πr^2 の分布に従うなら, 観測面積の平均を用いても問題ないことに注意.</p>	
82	2 行目	$\sum_{k=1}^c$	$\sum_{k=0}^c$
101	下 2 行目	7 人に与えられる順位の組合せ	群 \mathbf{A} の 3 人に与えられる順位の組合せ
104	11 行目	割り振った $\textcolor{red}{た}$ もの	割り振ったもの
105	3 行目	各群の順位 $\textcolor{red}{和}$ の平均	各群の順位の平均
105	14 行目	(x_i, y_i) と (x_j, y_j) ($i \neq j$)	(x_i, y_i) と (x_j, y_j) ($i < j$)
106	下 14 行目	6 人に与えられる順位の組合せ	\mathbf{A} 群 3 人に与えられる順位の組合せ



191	下 8 行目	修正項 $(N - n)(N - 1)$	修正項 $(N - n)/(N - 1)$
194	下 7 行目	$+\cdots + (5 - 5.5)(5 - 4.5)$	$+\cdots + (5 - 5.5)(4 - 4.5)$
198	例 2 [1]	小テストの結果を図 22.1 のように第 1, 第 2 主成分で	小テストの結果を第 1, 第 2 主成分で
250	下 7 行目	周期が λ_1 から λ_2 の変動に帰着する変動	周波数 λ_1 から λ_2 に帰着する変動
